

## 平成7年国勢調査のポイント

平成6年7月15日までの統計局統計調査部長在職2年間、ずっと来年の国勢調査の企画に携わってきたが、互に関係し合うそのポイントを、リレー式に挙げてみて識者の参考に供したい。

①外国人から始めよう。経済力を背景にした日本の国際化に伴い外国人が流入しており、その数は今度の国勢調査で100万人を超えることは間違いないであろう。外国人に対するいよいよ本格的な施策が必要となってくる。それは、国際社会の中で日本が当然果たすべき責務であると同時に、日本人自身の安全で快適な生活の維持のためにも講ずるべき措置である。国勢調査でその実態把握がまず求められているが、中には不法滞在者もあるという外国人に調査にどのようにして協力して貰うか。

②広報の問題に移ろう。外国人に対して国勢調査の意義・内容、警察等からの独立性等を周知させるために、市区町村の外国人専用の広報紙のほか、いわゆるミニコミの利用が効果的なのではないかと考えられる。特に国勢調査が、不法滞在者等を発見するためのものではないことを理解し、調査に協力して貰う必要がある。

一般的な広報については、統計局では今年度は1年早く開始している。カレンダーを用意したり、資料展示物として立体人口ピラミッドを試作したりしているが、③学校教育、教材については、すべての小中学校への人口密度図等のグラフの配付

も行う。このほか、最近力が入られているパソコン教育用のデータとソフトの提供等も有効なのではないかと考えられる。

データと言えば、コンピュータのハード、ソフト両面の急激な進歩の状況下における④国勢調査結果の提供方法も1つのポイントである。媒体面では従来の報告書中心方式から、フロッピー、CD-ROM等多様な媒体へ、更にはデータベースによる提供といった展開が考えられる。内容面では、従来の ready-made な結果表中心方式、すなわち統計表をあらかじめ全部決めておく方式から、order-made な集計方式、例えば、1%サンプル等を使って必要な統計表を即座に提供するようなサービスも技術的には可能となってきた。基本単位区をベースにした小地域統計は、地方公共団体にとって特に有用であろう。

⑤結果の早期公表は、21世紀のグランドデザインの基礎資料としての重要性を標榜する関係で特に留意されているところである。従来、統計センターでの集計で就業者の産業・職業分類の符号付けに最も時間を必要としていた。5000万枚近い調査票を東京に集めてしまってからではどうしようもないのであって、今年度の国勢調査では、産業大分類を各地方で同時並行的に分散して付けて貰う⑥地方格付け方式を提案し、地方交付税等の算定にも重要な役割を持つこの面の結果の早期公表を目指している。産業分類の格付けについては、一

定の約束があるので、分かりやすいマニュアルを準備し、適切な研修等を行う必要がある。

国勢調査の実査を担当する地方においては、80万人を超える調査員の確保と研修が大きな仕事であるが、まず⑦安全対策を十二分なものにしなければならない。複数調査員の相互協力、チーム調査、同行者の活用等を地域によって適宜選択し、調査員の安全を確保できるよう、行政上必要な措置を講じなければならない。

⑧調査の環境については、外国人世帯、単身世帯の増加、オートロックマンションの普及、不在世帯の増加等が、プライバシー意識の高揚とともに国勢調査の環境を非常に厳しいものにしていく。広報に一層の工夫が要求されるところであるが、調査員調査はこのような環境下では限界に達しているとして、メール調査等を導入すべきとの意見

もある。

⑨メール調査は、回収作業の煩雑さ、回収率の悪さ、回答内容の不備等の欠点を思えば、国勢調査等基幹的な調査に適用することは困難である。しかし、調査票の設計をテストする場合の試験調査、調査の精度について大体のデータが得られればよいといった場合の事後調査、当座、緊急に必要なデータを得るためのアドホックな調査等に有用であると考えられる。メール調査は、事業所を対象とする比較的小規模な調査に実際に適用されているが、世帯対象調査にも今言ったような用途でその活用を図る必要がある。

国勢調査は、各方面の関係者の多大な協力、尽力によって初めて成功裡に実施されるものである。

⑩行政の基礎、統計の中の統計である国勢調査について、よろしく願いたい。



## 平成7年国勢調査の標語が決定

総務庁統計局では、平成7年10月1日現在で「平成7年国勢調査」を実施するに当たり、国勢調査の重要性に対する理解を深め、調査が円滑に行われるよう、国勢調査の定義及び実施目的等を簡潔に表現した「標語」を広く一般から募集しました。

その結果、全国から1万1千点にも及ぶ応募があり、その中から一般の部、小・中学生の部でそれぞれ「入選」3点、「佳作」10点が選ばれました。本県からは、小・中学生の部で綾和町立下辺見小学校6年・青木沙緒里さんの作品が佳作に1点入りました。

これらの標語については、今後、平成7年国勢調査の実施に向けて、国及び地方公共団体において、広く広報等に用いることになります。

### 一般の部

#### 入 選

とらえよう 日本の鼓動を 数字から  
愛知県豊田市 沢 田 征一郎  
国勢調査 生かしてひらこう 新世紀  
佐賀県佐賀市 原 峻一郎  
ありのまま あなたの答えが 国の基礎  
神奈川県横浜市保土ヶ谷区 松 田 宏

#### 佳 作

素顔の日本 数字で明かす 国勢調査  
東京都足立区 安 棲 繁 美  
活かします 国勢調査は 明日への指針  
大阪府大阪市福島区 北 川 賢 二  
新世紀へ つなぐ日本の 基礎データ  
神奈川県相模原市 小 室 悦 子  
国勢調査 みんなの協力 広がる未来  
栃木県小山市 佐 藤 順 一  
国勢調査 見えない明日が 見える窓  
静岡県静岡市 杉 浦 敏 夫  
次世紀へ 確かなルール 国勢調査  
北海道札幌市東区 滝 沢 覚  
知りたいね この街 この国 国勢調査  
愛知県豊川市 林 真由美  
新世紀 ひらく鍵<sup>かぎ</sup>です 国勢調査  
愛知県名古屋市名東区 平 尾 紀 子

0歳も 立派な1人 国勢調査

三重県津市 森 川 益 明

未来地図 描く基本の 国勢調査

愛知県東海市 吉 鶴 弥 生

## 12月 小・中学生の部

### 入 選

数字の中に入ってる 僕も 私も 赤ちゃんも

愛知県名古屋市立北陵中学校 3年 大 井 伸一朗

私のまち 好きなまち 皆がささえる国勢調査

千葉県我孫子市立我孫子第4小学校 6年 鈴 木 玲絵菜

ちいさいけれど わたしを かぞえてネ

秋田県神岡町立北神小学校 1年 渡 辺 絵里子

### 佳 作

全員参加 もれなく記入 国勢調査

茨城県総和町立下辺見小学校 6年 青 木 沙緒理

調べよう 日本の北から南まで

愛知県美和町立美和中学校 2年 門 原 孝 紘

国勢調査 歩む日本の サポーター

栃木県湯津上村立湯津上中学校 2年 佐 藤 毅

日本じゅう 一目でわかる 国せいちょうさ

愛媛県保内町立川之石小学校 2年 清 家 志乃江

おとうさん こくせいちょうさは みんなのためにあるんだね

兵庫県姫路市立旭陽小学校 2年 槌 田 恭 子

5年たち こんなに変わった マイシティ

静岡県磐田市立南部中学校 3年 永 井 友 梨

僕たちの 未来のために 正しい調査

群馬県中里村立中里中学校 3年 二ツ橋 香 苗

生きている 日本をつかもう 国勢調査

愛知県犬山市立南部中学校 2年 三田村 有 美

知りたいな 今の日本の 正しい姿

愛知県名古屋市立平針中学校 2年 宮 崎 聖 子

国のこと しっかり知ろうよ 国勢調査

沖縄県沖縄市立安慶田小学校 6年 宮 里 幸 会

# 全国統計グラフコンクールで文部大臣奨励賞獲得

——平成6年度 茨城県及び全国統計グラフコンクール——

第45回茨城県統計グラフコンクールは、応募作品9,979点、応募者22,190人という多くの方々の参加を頂きました。

作品の傾向としては、本県は従来から紺系統の寒色を基調にした作品が多かったのですが、本年度の作品を見ると色々な手法を駆使し、全体のイメージが明るいものが多く見られました。

また、テーマの選択についても、小学生は低学年では学校のこと、家族のこと、将来の夢など、高学年ではごみのリサイクル、今年問題になった水不足、おこづかいの使い方など身近な素材を選んだものが多く、中学生は今年の冷夏の影響、環境問題、悩みの問題などマスコミからの情報等を活用して社会の事象を適切にとらえてまとめています。

審査は、県内5地区において地区審査員により地区別審査がまず行われ、作品554点が選ばれました。これらの作品について最終審査は、9月19・20日の両日、常陸太田市「ときわ路」において県審査員10名により厳正に行われ、知事賞5点、県議会議長賞5点等入賞作品82点が最終的に選ばれ、このうち特に優秀な作品22点については、全国コンクールに出品しました。

これらの入賞者については、12月2日(金)、県民文化センターにおいて開催される第36回茨城県統計大会の席上で表彰が行われ、賞状と副賞品が贈られます。

なお、入賞作品については、12月21日から25日までの5日間、水戸駅前川又書店において展示し、一般の皆様方にご覧頂きます。その後、各小・中学校を巡回展示する予定になっています。

次に、第42回統計グラフ全国コンクールについて述べますと、全国で57,782点の応募作品があり、このうち各県から中央審査に出品された800点について、10月4日(火)に審査会が行われました。

この結果、本県出品作品から11点が入賞し、うち小学生(第2部)と一般の部(第5部)の作品2点が全国特選(各部で1点)に輝き、さらに小学生は文部大臣奨励賞(全国で1点)も合わせて受賞しました。

本県の統計グラフの作成活動はここ数年間、質・量とも全国のトップレベルを維持し「統計茨城」の名にふさわしい結果であるといえます。

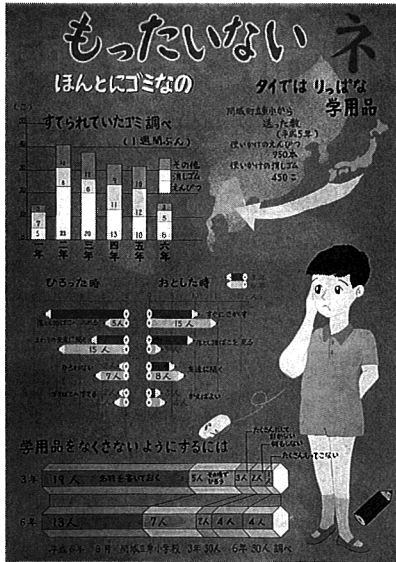
特選の表彰については、11月11日(金)に滋賀県大津市の滋賀県立体育館において開催される第45回全国統計大会の席上、結城市立江川南小学校4年・鮎川祐子さん・奥村友佳さん・舟橋真澄さん・柳田あゆみさんが第2部の全国代表として、つくば市東岡の倉田廣之さんが第5部の全国代表として受賞いたします。

なお、県知事賞受賞作品及び本県の全国コンクール特選受賞作品は次頁のとおりです。

## 〔各部の対象者〕

- 第 1 部 小学1～3年生
- 第 2 部 小学4～6年生
- 第 3 部 中学生
- 第 4 部 高校生
- 第 5 部 大学生・一般
- パソコン統計グラフの部 小学生以上

(統計課・普及指導グループ)



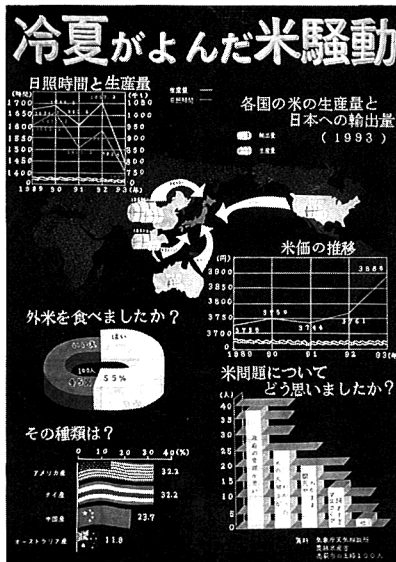
〈第1部〉 知事賞

関城町立東小学校3年  
藤田 知・粟野 剛



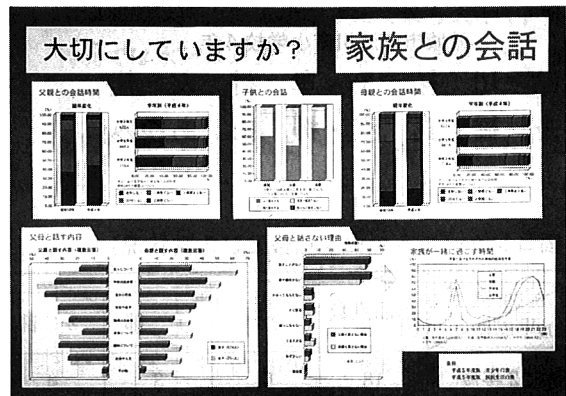
〈第2部〉 知事賞・全国入選

結城市立上山川小学校6年  
岩崎 里香・高橋由希子・山中真紀子



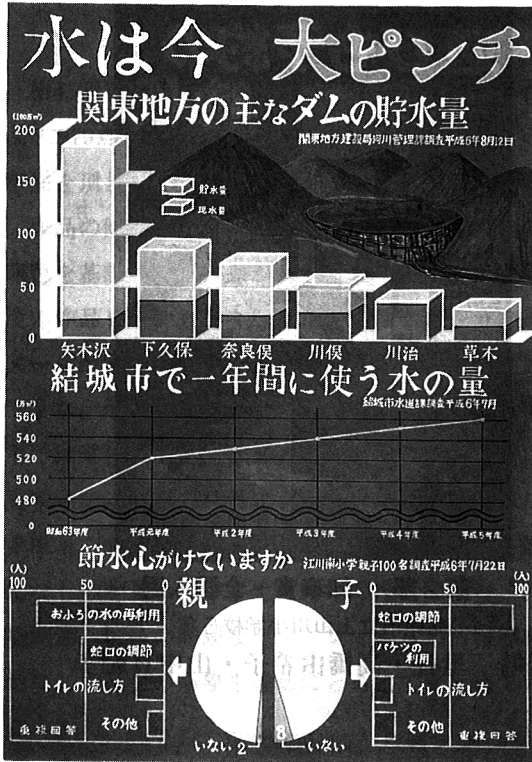
〈第3部〉 知事賞

高萩市立秋山中学校3年  
小林 彩・鈴木 直子  
飯田 美紀・風祭 広美



〈パソコン統計グラフの部〉

知事賞・全国佳作  
下館市立南中学校2年  
菊池ひとみ・館野 千陽・大谷美友紀  
菊池 真弓・広瀬美佐子



〈第2部〉 教育長賞・全国特選  
 文部大臣奨励賞

結城市立江川南小学校4年

鮎川 祐子・奥村 友佳  
 舟橋 真澄・柳田 あゆみ

〈第5部〉 知事賞・全国特選

つくば市・教員

倉田 ひろゆき  
 田 廣之

[全国コンクールへの出品点数及び入賞状況]

区分	年度	出品点数	計	部					パソコンの部	特選
				1部	2部	3部	4部	5部		
	平成2年度	18	14	3	4	4	—	2	1	—
	平成3年度	18	12	4	2	4	—	1	1	1
	平成4年度	23	15	5	3	2	—	1	4	1
	平成5年度	22	14	3	4	3	—	1	3	2
	平成6年度	22	11	2	5	—	—	2	2	2